

保育現場の働き方改革に関するアンケート調査結果について（概要版）

大分県福祉保健部こども未来課（以下、「県」という。）では、保育施設における人材確保等の現状や働き方改革に関する取組状況等を把握することを目的に、県内の認可保育所等を対象とした「保育施設向け実態調査」と、県が管理する保育士登録名簿に記載されている保育士を対象とした「保育士アンケート」を実施した。

1 アンケート調査概要

■保育施設向け実態調査

【調査期間】 平成30年5月10日～5月25日

【調査対象】 367施設（認可保育所、認定こども園、小規模保育所等（家庭的保育、事業所内保育を含む））

【回答数】 186施設（回答率50.7%）

【調査方法】 Webアンケート（簡易申請システム）

■保育士アンケート（現役保育士、潜在保育士）

【調査期間】 平成30年4月20日～5月25日

【調査対象】 6,568名（保育士登録を行っている14,488名のうち、26～65歳かつ登録後7年以上の者へDM送付）※DMが返戻された687名を除く

【回答数】 614名（現役保育士541名、潜在保育士73名）（回答率9.3%）

【調査方法】 Webアンケート（簡易申請システム）

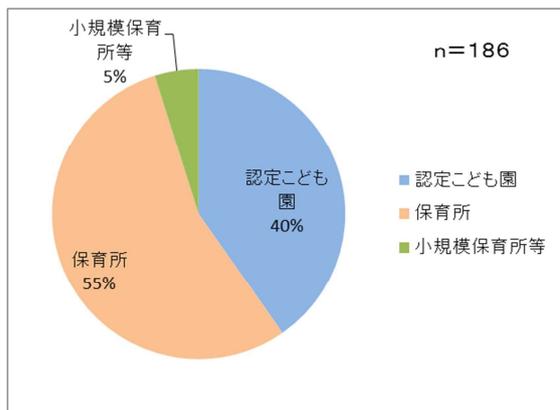
2 回答者の属性

（1）保育施設

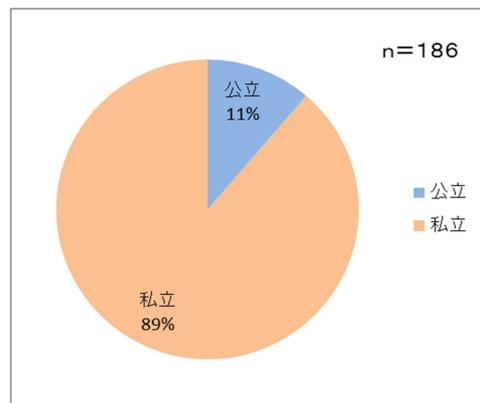
回答の施設類型の内訳は、保育所が102施設、認定こども園が75施設、小規模保育所等が9施設であった（図表1）。

公立・私立の別は、公立が21施設、私立が165施設であった（図表2）。

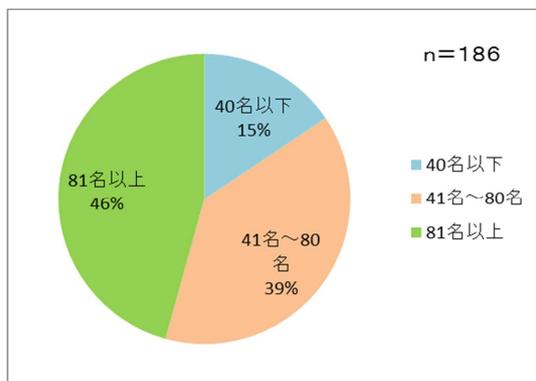
（図表1）施設類型



（図表2）公立・私立の別

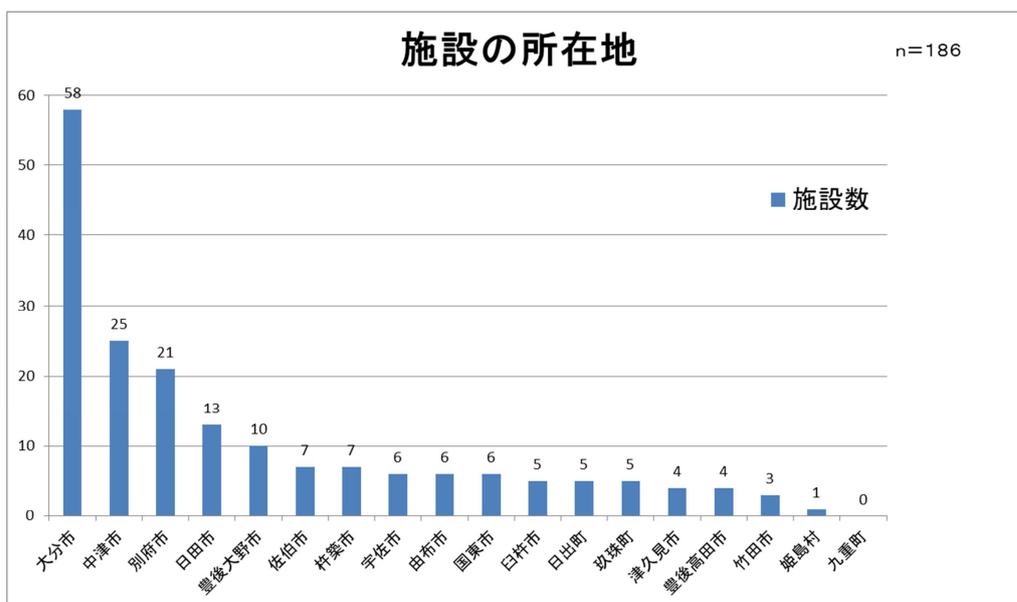


(図表 3) 利用定員



利用定員は「40名以下」が29施設、「41名~80名」が72施設、「81名以上」が85施設であった(図表3)。

(図表 4) 施設の所在地



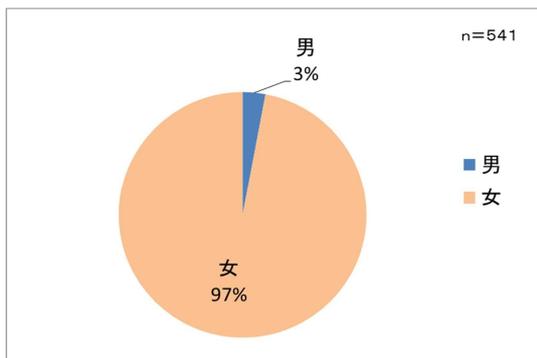
施設の所在地を見ると、大分市(58施設)、中津市(25施設)、別府市(21施設)、日田市(13施設)、豊後大野市(10施設)の順であった(図表4)。

(2) 現役保育士

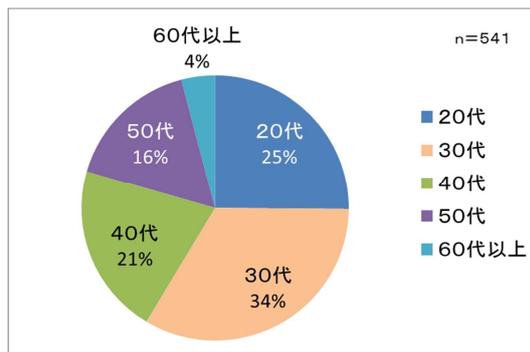
性別を見ると、女性が97%を占めている。年齢別に見ると、30代(181名)と最も多く、続いて20代(136名)、40代(113名)となっている(図表5、図表6)。

居住地を見ると、大分市(151名)が最も多く、別府市(66名)、中津市(54名)、日田市(50名)、臼杵市(40名)、宇佐市(36名)の順であった(図表7)。

(図表5) 男女比(現役保育士)

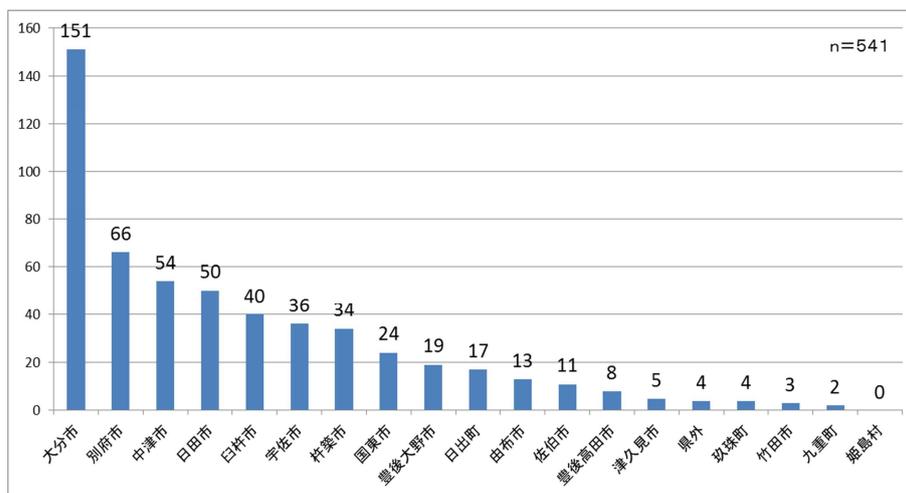


(図表6) 年齢構成(現役保育士)



(図表7) 居住地別(現役保育士)

(単位:人)

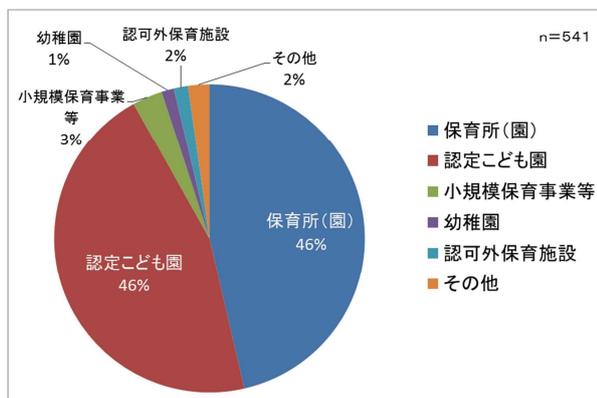


(図表8) 勤務先の施設類型(現役保育士)

勤務先の施設類型を見ると、「保育所」が46%(251名)、「認定こども園」が46%(246名)となっている。

「その他」には、病院や病児保育室、障がい児保育施設などがあった。

(図表8)

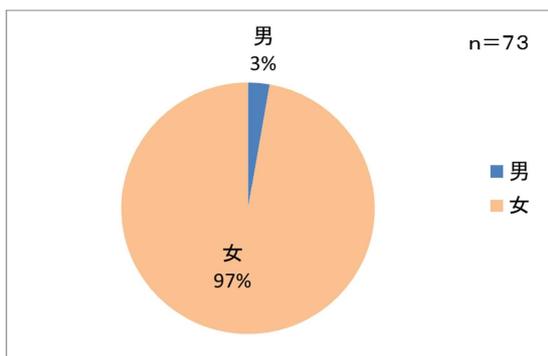


(3) 潜在保育士

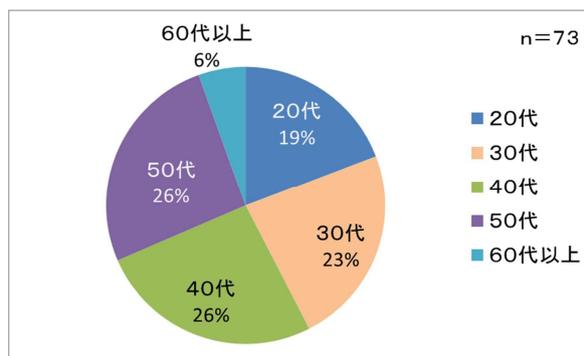
性別を見ると、女性が97%を占めている。年齢別に見ると、40代（19名）及び50代（19名）が最も多く、続いて30代（17名）、20代（14名）となっている（図表9、図表10）。

居住地を見ると、大分市（26名）が最も多く、日田市（7名）、宇佐市（7名）、別府市（6名）、豊後大野市（6名）の順であった（図表11）。

(図表9) 男女比 (潜在保育士)

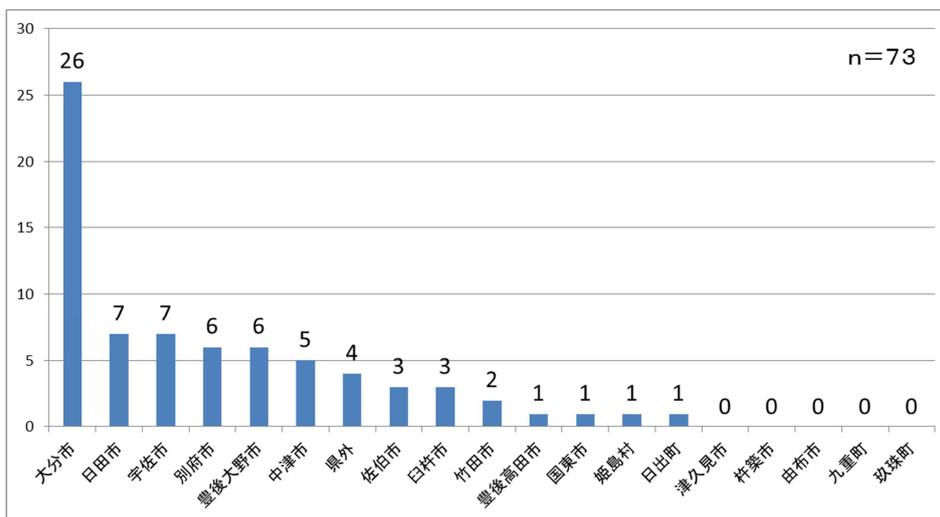


(図表10) 年齢構成 (潜在保育士)



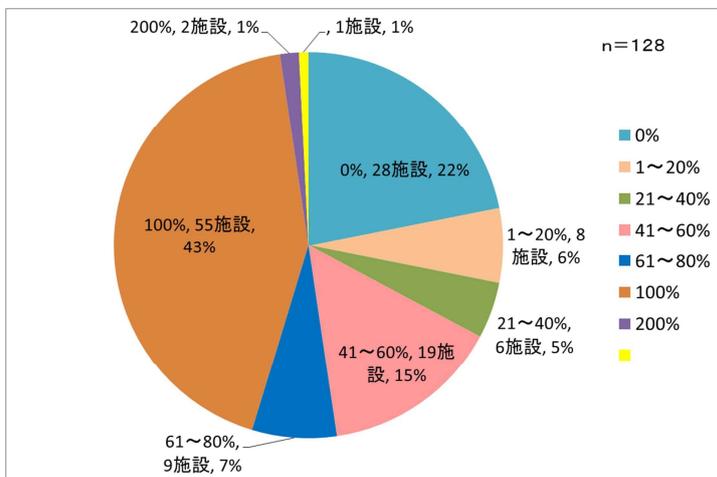
(図表11) 居住地別 (潜在保育士)

(単位：人)



3 保育士確保の状況（保育施設）

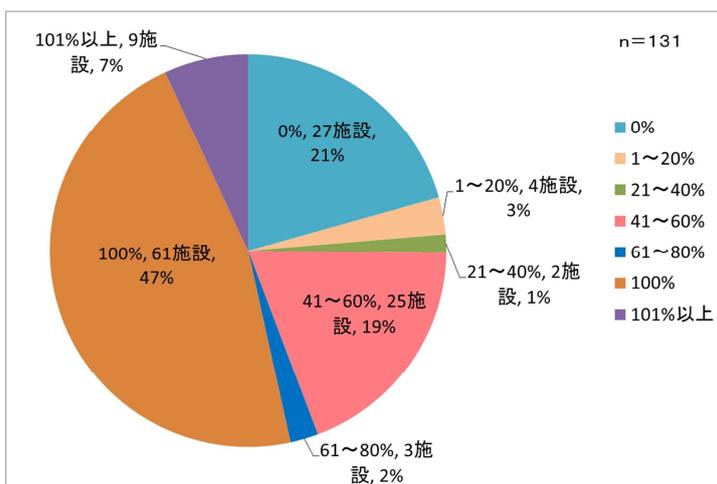
（図表 1 2）保育士（正規職員）の求人数に対する充足率（H29 年度）



正規職員の求人数の合計は 421 名で、採用数は 227 名だった（充足率 54%）。

施設ごとの充足率を見ると、「100%」に満たない施設が 70 施設で 55% を占めている。そのうち、「0%」が 28 施設で 22% を占めている（図表 1 2）。

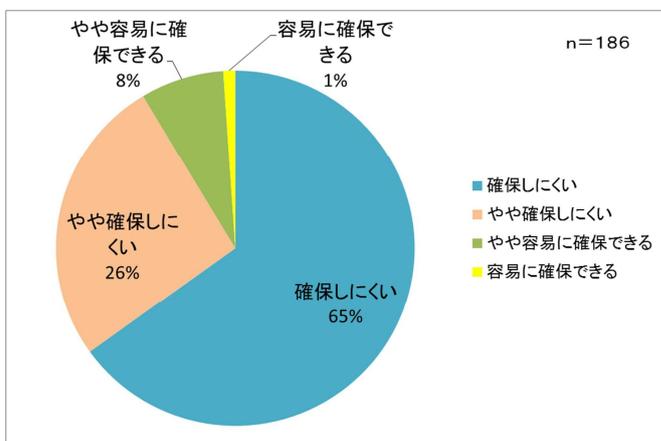
（図表 1 3）保育士（非正規職員）の求人数に対する充足率（H29 年度）



非正規職員の求人数の合計は 397 名で、採用数は 239 名だった（充足率 60%）。

施設ごとの充足率を見ると、「100%」に満たない施設が 61 施設で 46% を占めている。そのうち、「0%」が 27 施設で 21% を占めている（図表 1 3）。

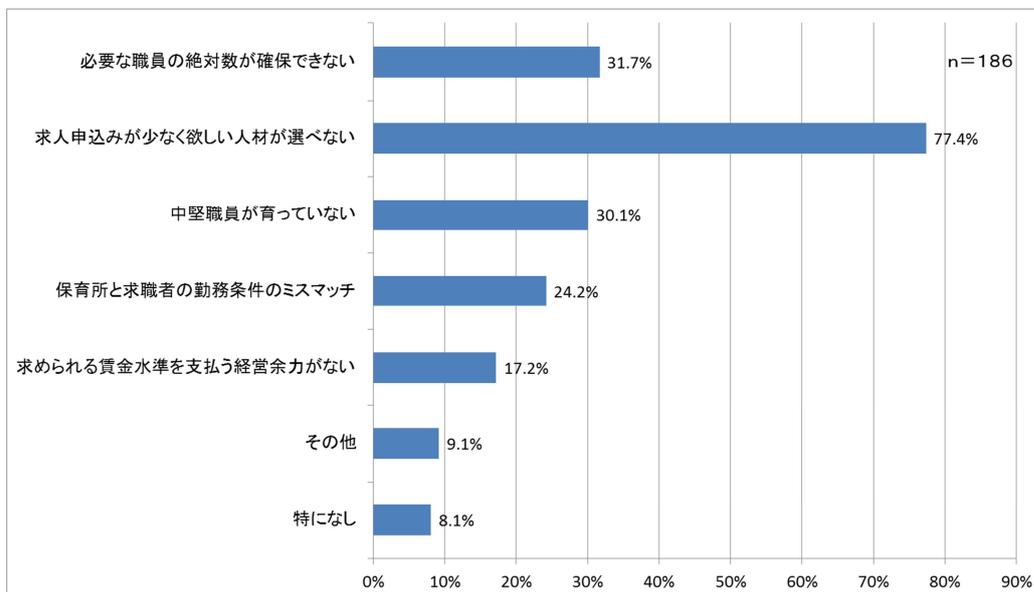
（図表 1 4）保育士は確保しやすいか



保育士を「確保しにくい」と回答したのは 121 施設で最も多く、「やや確保しにくい」を含めると 91% を占めている。

「容易に確保できる」は 9%（2 施設）と少なかった（図表 1 4）。

(図表 1 5) 直面する人材確保の課題 (複数回答可)

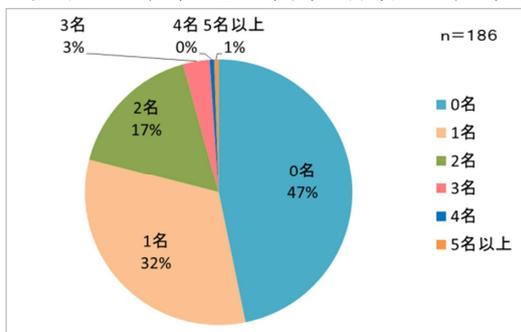


直面する人材確保の課題については、「求人申込みが少なく欲しい人材を選べない」が 77.4%と最も多く、続いて「必要な職員の絶対数が確保できない」が 31.7%、「中堅職員が育っていない」が 30.1%となっている (図表 1 5)。

4 保育士の離職状況

(1) 保育施設

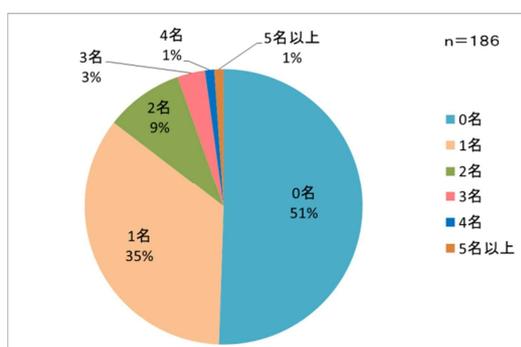
(図表 1 6) 直近 1 年間の保育士 (正規職員) の離職者数



保育士 (正規職員) の離職者数は、「0名」が 87 施設で約半数を占める。続いて「1名」と「2名」を併せて約半数となっている。

(図表 1 6)

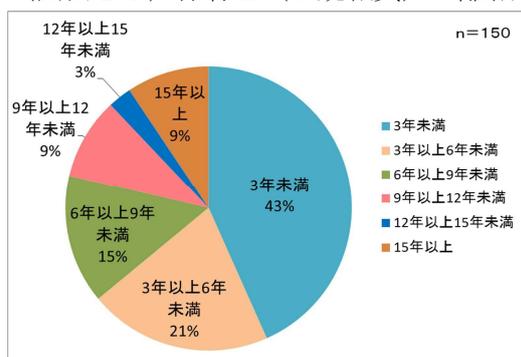
(図表 1 7) 直近 1 年間の保育士 (非正規職員) の離職者数



保育士 (非正規職員) の離職者数は、「0名」が 94 施設で約半数を占める。続いて、「1名」が 65 施設で、「2名」が 17 施設あった。

(図表 1 7)

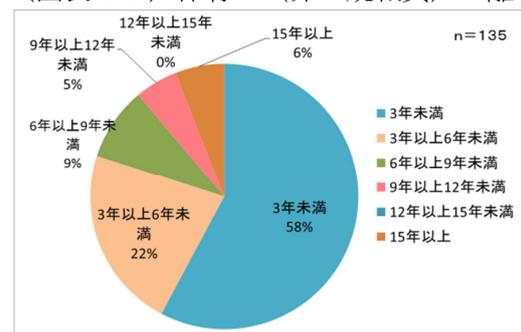
(図表 1 8) 保育士 (正規職員) の離職者の勤続年数別人数



離職者の勤続年数を見ると、「3年未満」が 43% (65名) で最も多くなっており、続いて「3年以上6年未満」が 21% (31名) となっている。

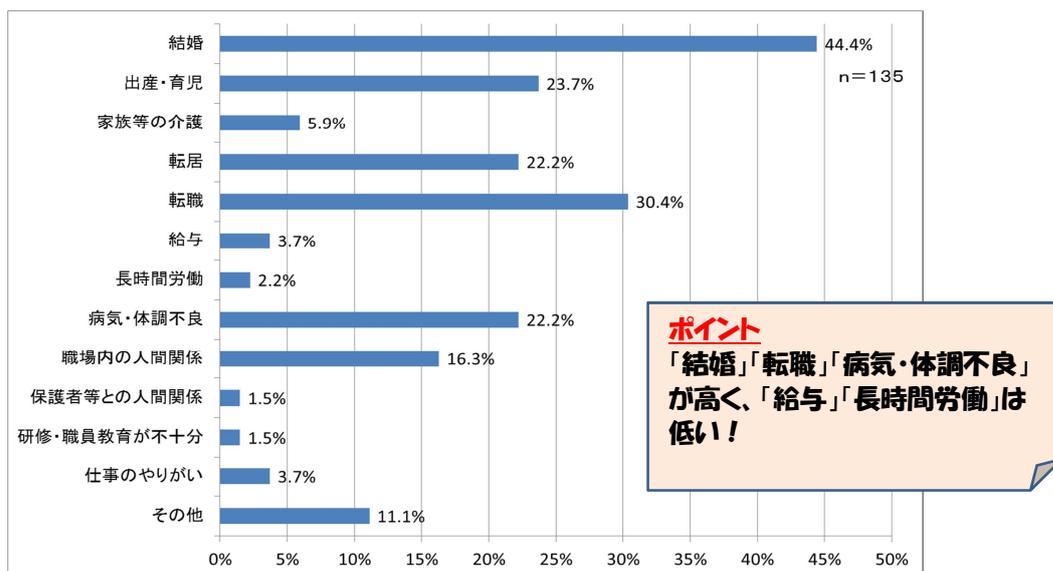
また、「15年以上」は 9% (14名) となっている (図表 1 8)。

(図表 1 9) 保育士 (非正規職員) の離職者の勤続年数別人数



離職者の勤続年数を見ると、「3年未満」が 58% (78名) と最も多くなっており、続いて「3年以上6年未満」が 22% (30名) となっている (図表 1 9)。

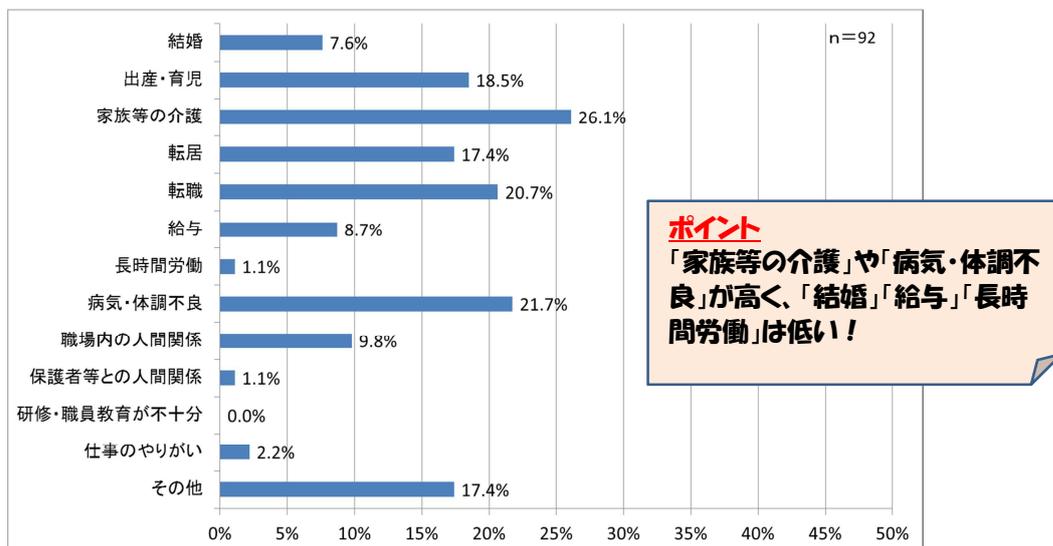
(図表 20) 直近 3 年間の離職者 (正規保育士) の主な離職理由 (3 つまで)



直近 3 年間の離職者 (正規保育士) の主な離職理由は、「結婚」が 44.4% で最も多く、続いて「転職」が 30.4%、「出産・育児」が 23.7%、「病気・体調不良」及び「転居」が 22.2% となっている。

「給与」や「長時間労働」、「研修・職員教育が不十分」、「保護者等との人間関係」などは、低い値になっている (図表 20)。

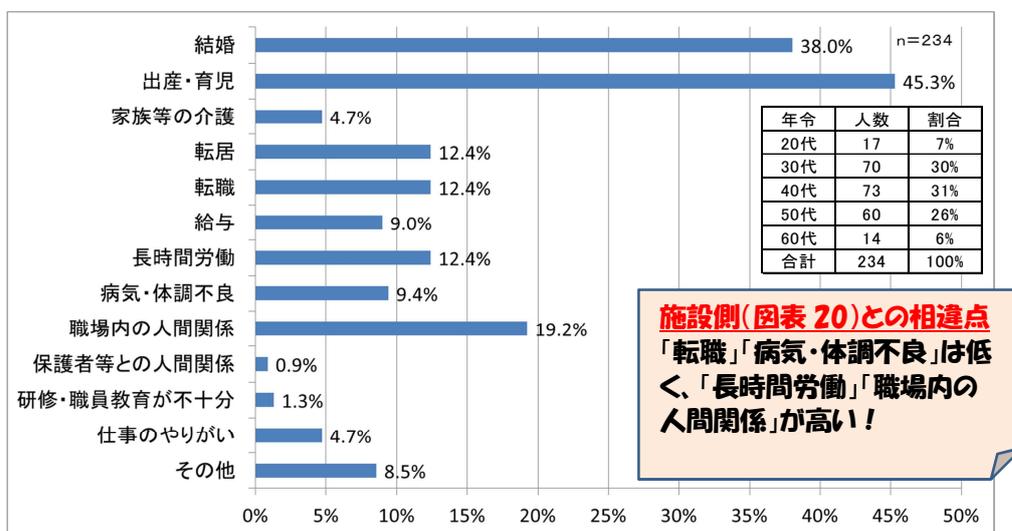
(図表 21) 直近 3 年間の離職者 (非正規保育士) の主な離職理由 (3 つまで)



直近 3 年間の離職者 (非正規保育士) の主な離職理由は、「家族等の介護」が 26.1% で最も多く、続いて「病気・体調不良」が 21.7%、「転職」が 20.7%、「出産・育児」が 18.5% となっている。「結婚」や「給与」、「長時間労働」、「保護者等との人間関係」などは、低い値になっている (図表 21)。その他の理由は「雇用期間満了」など。

(2) 現役保育士

(図表 2 1) 離職した主な理由 (3つまで)

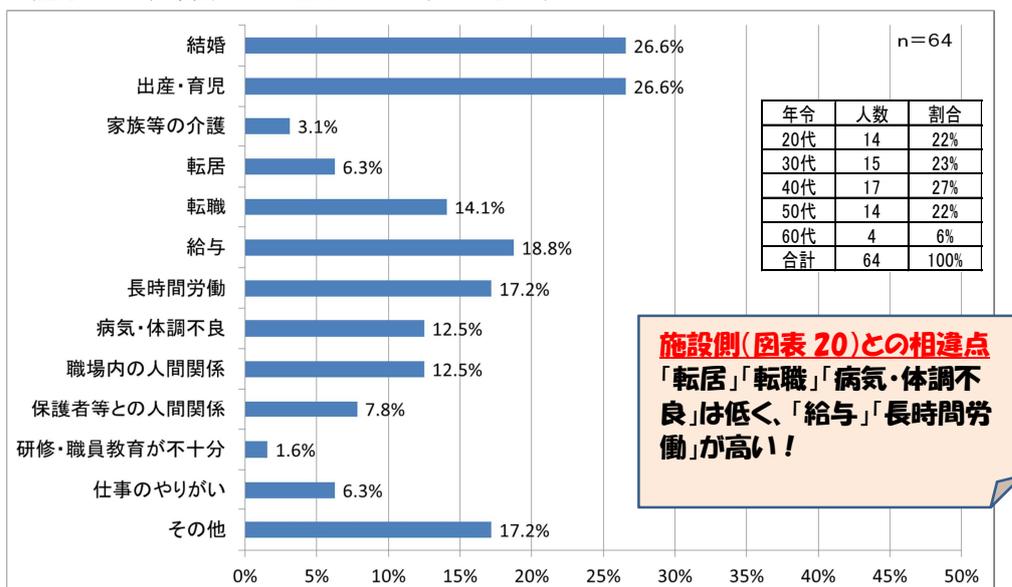


現役保育士の過去の離職理由は、「出産・育児」が45.3%で最も多く、続いて「結婚」が38.0%、「職場の人間関係」が19.2%となっている(図表21)。

「その他」の理由は、「定年退職」、「雇用期間満了」、「家庭を優先」など。

(3) 潜在保育士

(図表 2 2) 離職した主な理由 (3つまで)



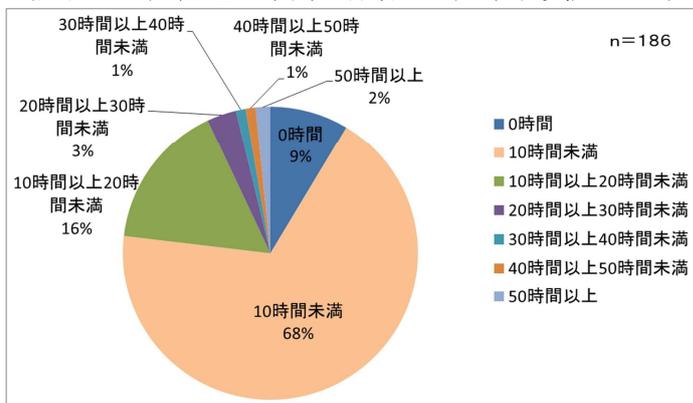
離職した理由については、「結婚」及び「出産・育児」が26.6%で最も多く、続いて「給与」が18.8%、「長時間労働」が17.2%となっている(図表22)。

「その他」の理由は、「定年退職」、「雇用期間満了」、「家庭の事情」など。

5 保育士の勤務実態（時間外勤務）

（１）保育施設

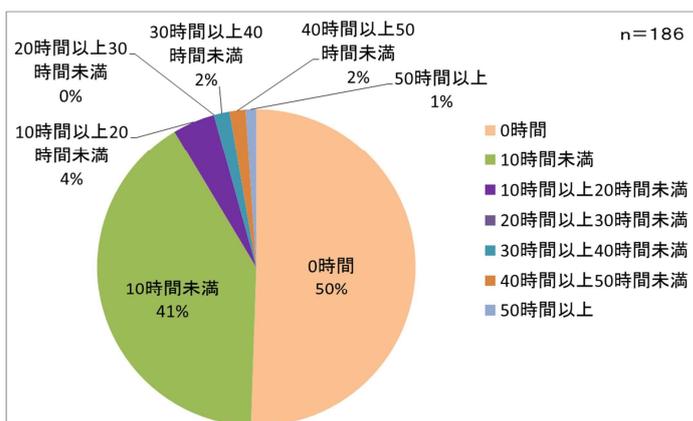
（図表 2 3）直近 1 年間の保育士（正規職員）の月平均時間外勤務時間



保育士（正規職員）月平均時間外勤務時間は、「10時間未満」が127施設と最も多くなっており、「0時間」の16施設を含めると、77%を占めている。

一方、「50時間以上」も3施設あった（図表 2 3）。

（図表 2 4）直近 1 年間の保育士（非正規職員）の月平均時間外勤務時間

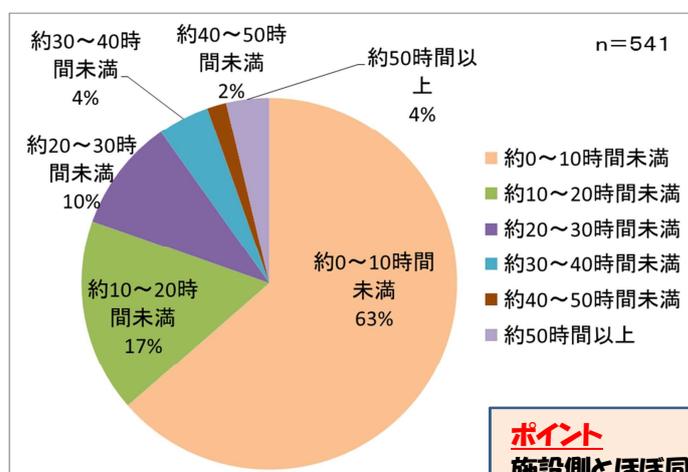


保育士（非正規職員）の月平均時間外勤務時間は、「0時間」が94施設で、「10時間未満」の76施設を含めると、91%を占めている。

一方、「50時間以上」も2施設あった（図表 2 4）。

（２）現役保育士

（図表 2 5）平成 3 0 年 2 月から 4 月の月平均時間外勤務時間（持ち帰り仕事を除く）

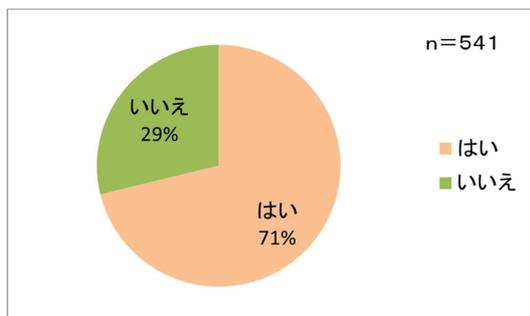


現役保育士の月平均時間外勤務時間（持ち帰り仕事を除く）は、「10時間未満」が344名で最も多く、続いて「10~20時間」が91名となっている。

また、「50時間以上」は20名だった（図表 2 5）。

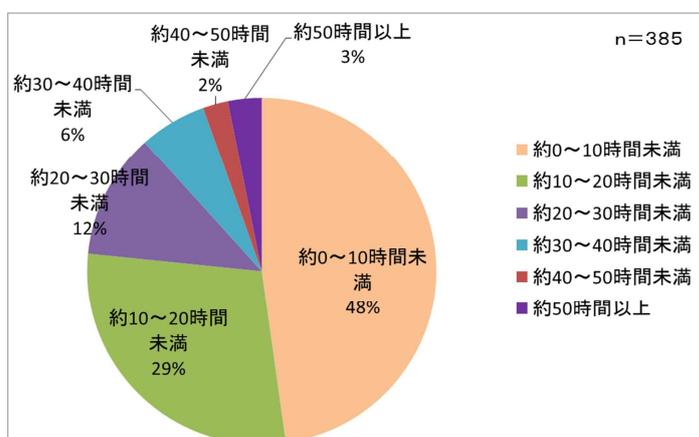
ポイント
施設側とほぼ同じ傾向！

(図表 2 6) 平成 3 0 年 2 月 から 4 月 に 持 ち 帰 り 仕 事 が あ っ た か



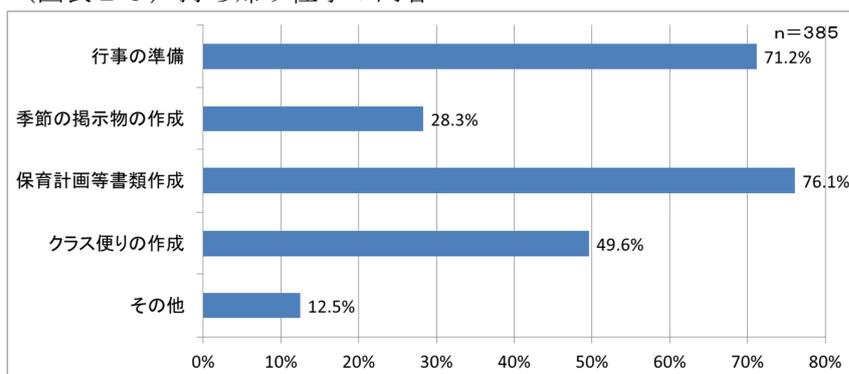
現役保育士の 7 1 % が「持ち帰り仕事があった」と答えている (図表 2 6)。

(図表 2 7) 平成 3 0 年 2 月 から 4 月 の 持 ち 帰 り 仕 事 に 要 し た 時 間 (月 平 均)



現役保育士が持ち帰り仕事に要した時間は、「1 0 時間未満」が 1 8 4 名で最も多く、続いて「1 0 ~ 2 0 時間未満」が 1 1 1 名となっている (図表 2 7)。

(図表 2 8) 持ち帰り仕事の内容

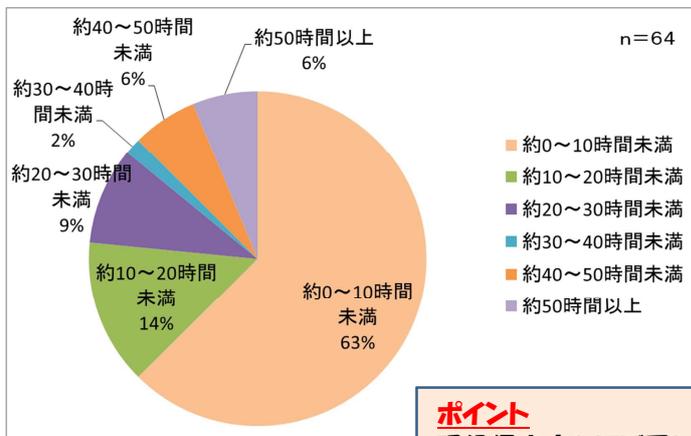


持ち帰り仕事の内容は、「行事の準備」や「保育計画等書類作成」が多くなっている (図表 2 8)。

「その他」の内容は、「新年度の準備」や「勤務表作成」や「アルバム作成」のほか、「卒業前や新年度の準備」「発表会の大道具、衣装づくり」などがあつた。

(3) 潜在保育士

(図表 29) 退職前3ヶ月の月平均時間外勤務時間(持ち帰り仕事を除く)

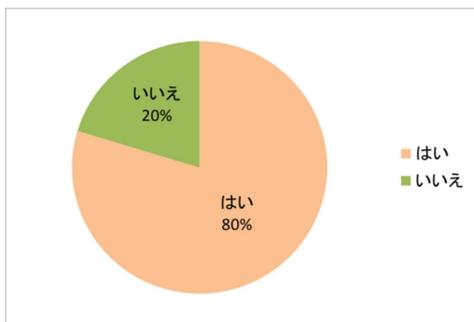


潜在保育士の退職前の月平均時間外勤務時間(持ち帰り仕事を除く)は、「10時間未満」が40名と最も多く、続いて「10~20時間未満」が9名となっている。

また、「50時間以上」は4名いた(図表29)。

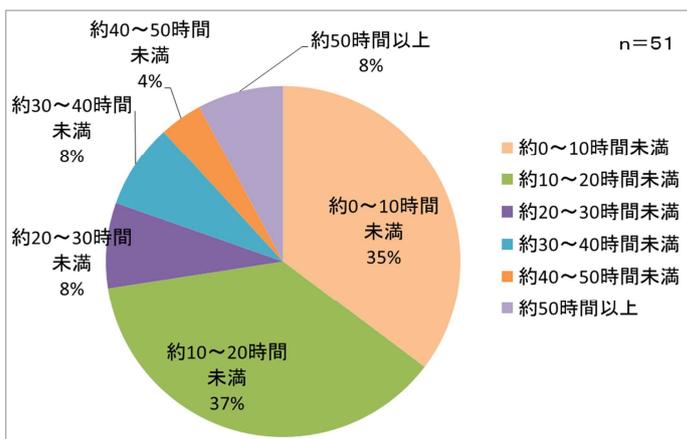
ポイント
現役保育士とほぼ同じ傾向!

(図表 30) 在職中、持ち帰り仕事があったか



潜在保育士の80%が「持ち帰り仕事があった」と回答している(図表30)。

(図表 31) 退職前3ヶ月の持ち帰り仕事に要した時間(月平均)

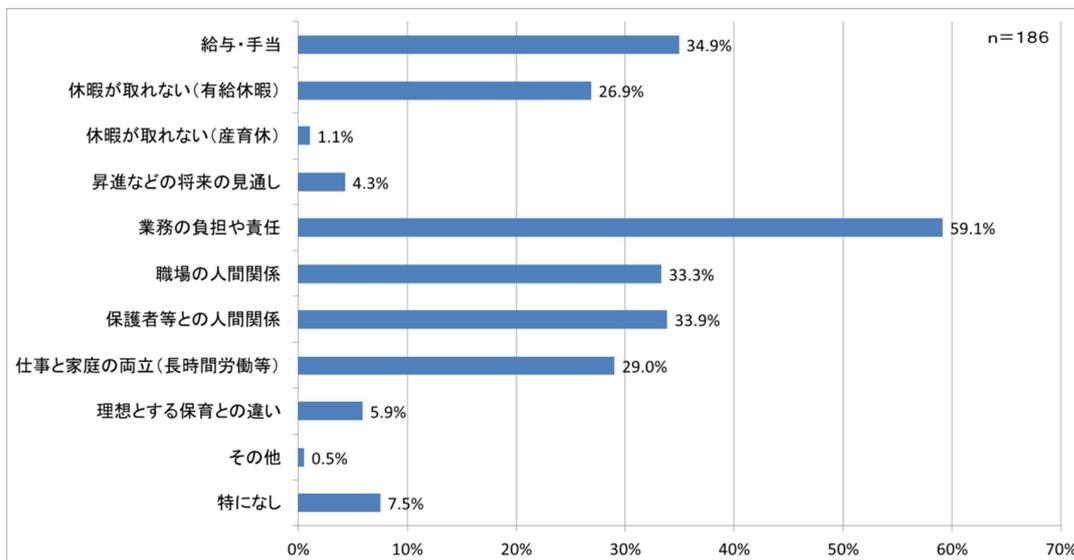


潜在保育士が退職前に持ち帰り仕事に要した時間は、「10~20時間未満」が19名と最も多く、続いて「10時間未満」が18名となっている(図表31)。

6 保育士の悩みや不満

(1) 保育施設

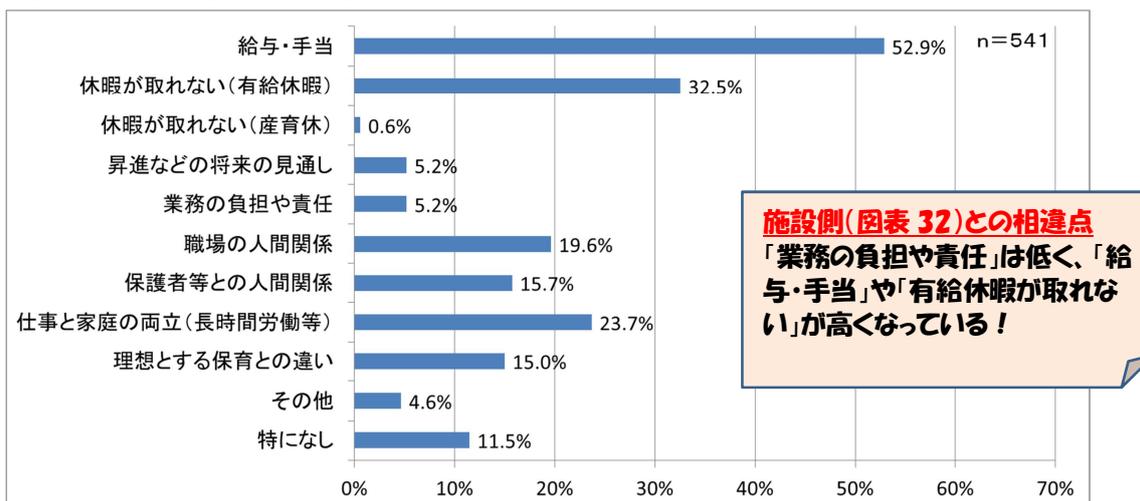
(図表 3 2) 貴施設の保育士がどのような悩みや不満を抱えていると思うか (3つまで)



保育士がどのような悩みや不満を抱えていると思うかの問いでは、「業務の負担や責任」が59.1%で最も多く、続いて、「給与・手当」の34.9%、「保護者等との人間関係」の33.9%、「職場の人間関係」の33.3%となっている(図表32)。

(2) 現役保育士

(図表 3 3) 保育士として働く上での悩みや不満は (3つまで)

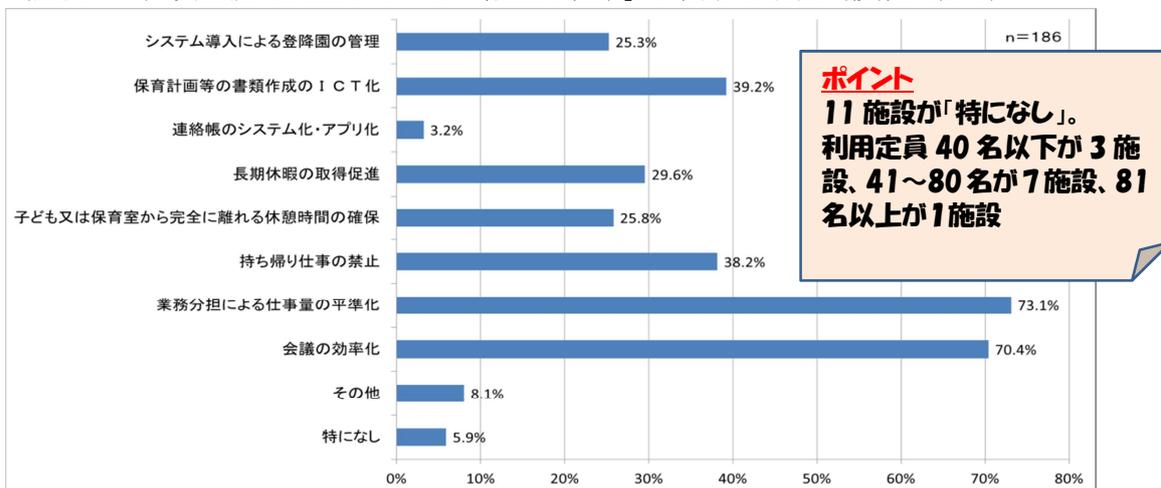


一方、現役保育士の悩みや不満は、「給与・手当」が52.9%で最も多く、続いて、「休暇が取れない(有給休暇)」の32.5%、「仕事と家庭の両立」の23.7%、「職場の人間関係」の19.6%となっている(図表33)。

7 働き方改革に関する取組状況

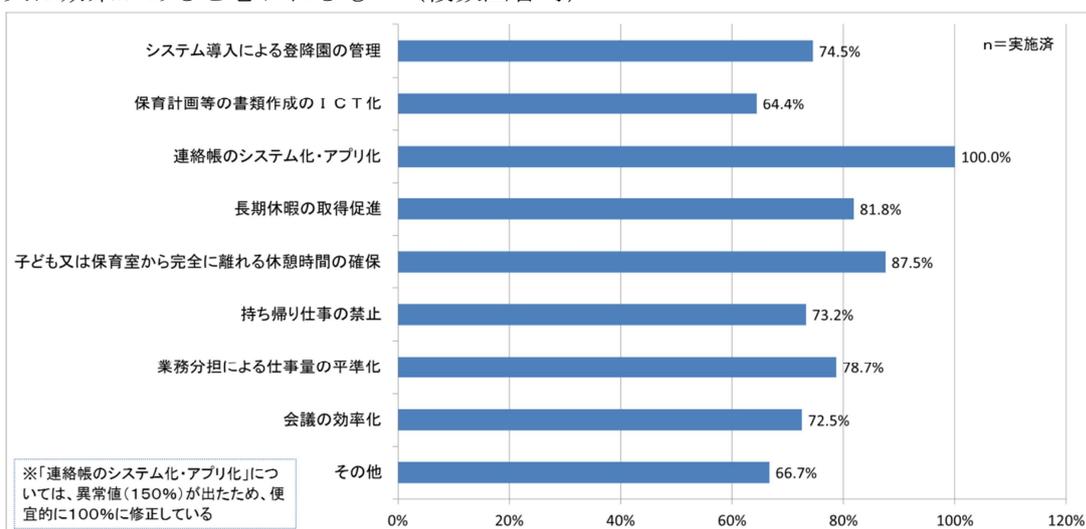
(1) 保育施設

(図表34) 貴施設で実施している「働き方改革」に関する取組（複数回答可）



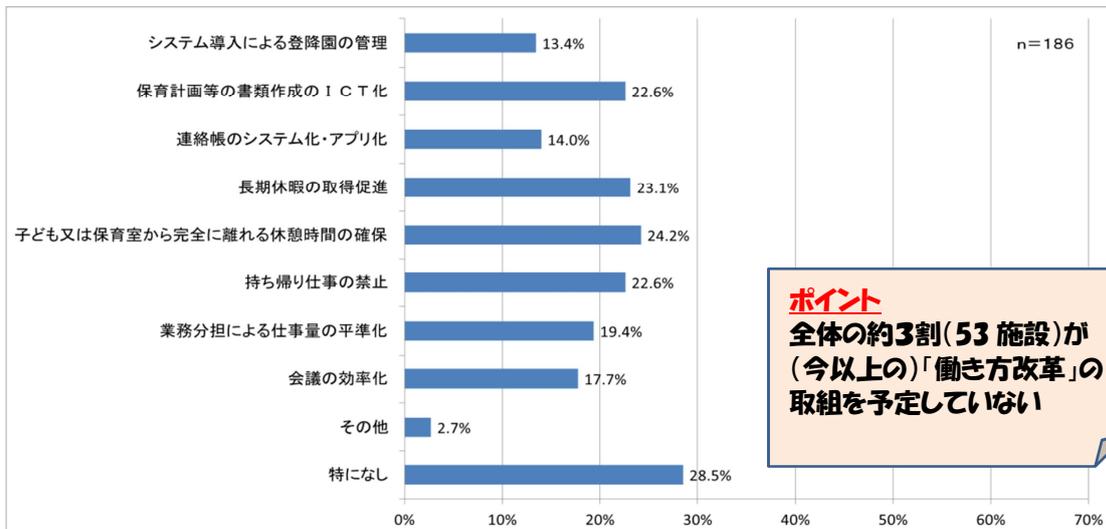
施設で実施している「働き方改革」に関する取組については、「業務分担による仕事量の平準化」が73.1%と最も多く、続いて、「会議の効率化」の70.4%、「保育計画等の書類作成のICT化」の39.2%、「持ち帰り仕事の禁止」の38.2%となっている（図表34）。また、5.9%（保育所9施設、認定こども園1施設、小規模保育施設等1施設）が「特になし」と回答している。

(図表35) 貴施設で実施している「働き方改革」に関する取組について、効果があった又は効果があると思われるもの（複数回答可）



施設で実施している「働き方改革」に関する取組について、効果があった又は効果があると思われるものは、「連絡帳のシステム化・アプリ化」が100%で最も多く、続いて、「子ども又は保育室から完全に離れる休憩時間の確保」が87.5%、「長期休暇の取得促進」が81.8%、「業務分担による仕事量の平準化」が78.7%となった（図表35）。

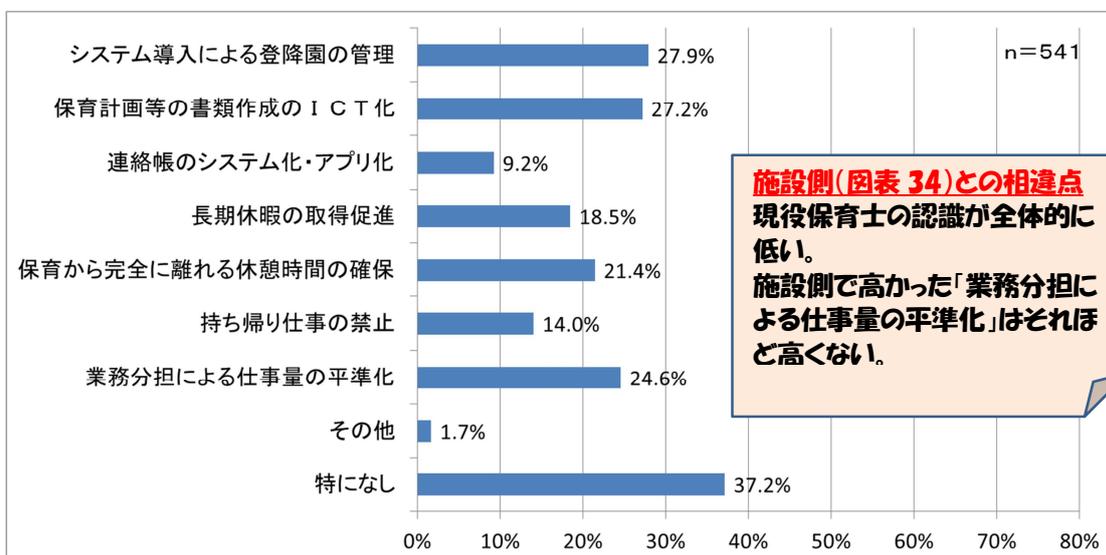
(図表 3 6) 貴施設で実施予定又は検討中の「働き方改革」に関する取組 (複数回答可)



施設で実施予定又は検討中の「働き方改革」に関する取組については、「特になし」が 28.5%で最も多く、続いて「子ども又は保育室から完全に離れる休憩時間の確保」が 24.2%、「長期休暇の取得促進」が 23.1%、「保育計画等の書類作成の I C T 化」と「持ち帰り仕事の禁止」が 22.6%となっている (図表 3 6)。

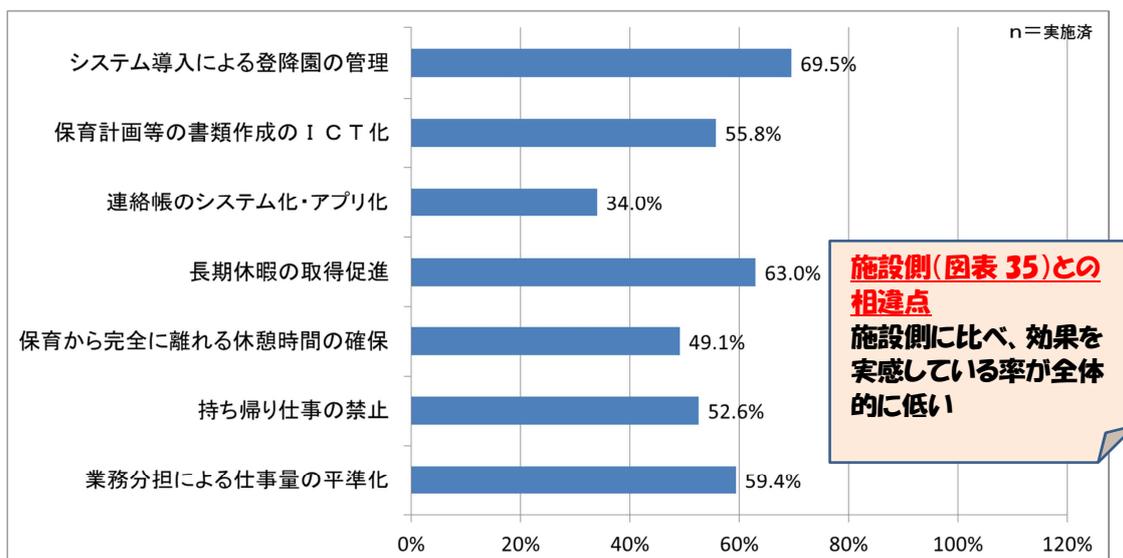
(2) 現役保育士

(図表 3 7) あなたの職場で実施している「働き方改革」に関する取組 (複数回答可)



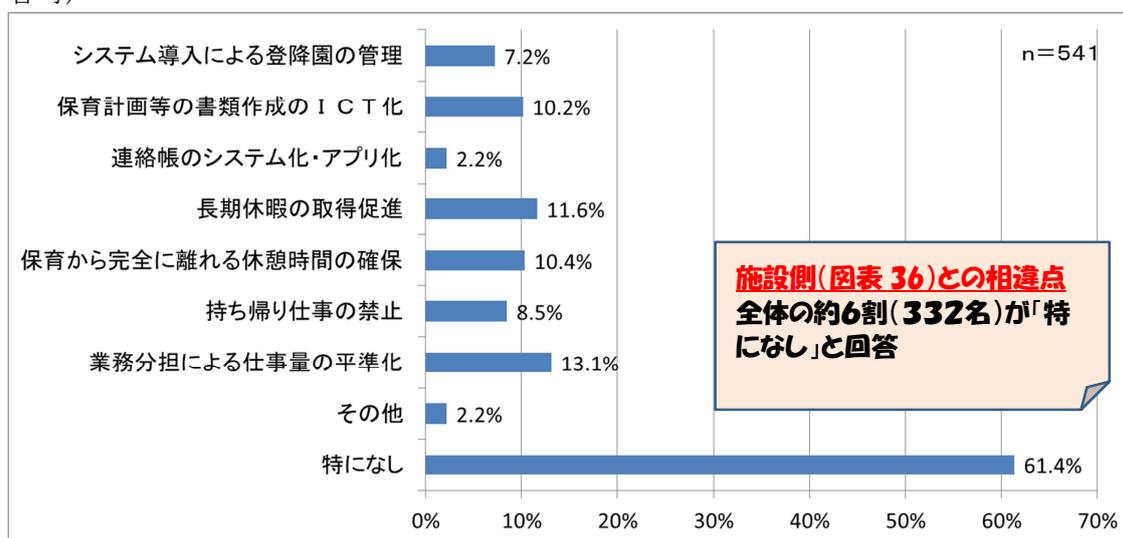
あなたの職場で実施している「働き方改革」に関する取組については、「特になし」が 37.2%で最も多く、続いて、「システム導入による登降園の管理」が 27.9%、「保育計画等の書類作成の I C T 化」が 27.2%となった (図表 3 7)。

(図表 3 8) 勤務する施設で効果があった「働き方改革」に関する取組 (複数回答可)



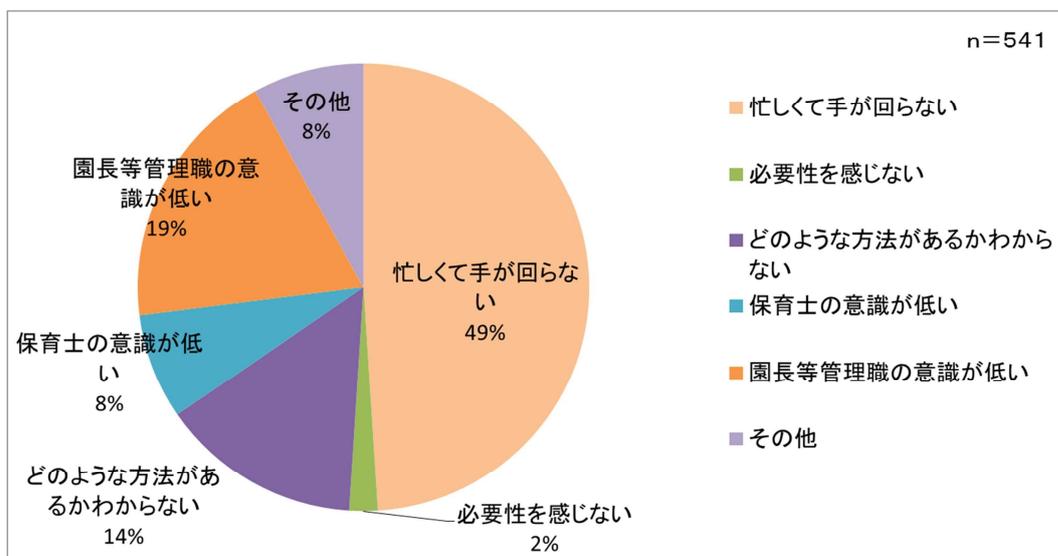
実施している施設に勤務する方で効果があった内容は、「システム導入による登降園の管理」が 69.5%で最も多く、続いて「長期休暇の取得促進」が 63.0%、「業務分担による仕事量の平準化」が 59.4%となった (図表 3 8)

(図表 3 9) あなたの職場で実施予定又は検討中の「働き方改革」に関する取組 (複数回答可)



あなたの職場で実施予定または検討中の「働き方改革」に関する取組については、「特になし」が 61.4%で最も多く、続いて「業務分担による仕事の平準化」が 13.1%、「長期休暇の取得促進」が 11.6%となっている (図表 3 9)。

(図表 4 0) 保育の現場の働き方改革が進まない理由は特に何だと思うか



「保育の現場の働き方改革が進まない理由は特に何だと思うか」の問いには、「忙しくて手が回らない」が265名（49%）で最も多く、続いて「園長等管理職の意識が低い」が103名（19%）、「どのような方法があるかわからない」が78名（14%）となった（図表40）。

ポイント
 「忙しくて手が回らない」が最も多く、
 「必要性を感じない」は2%と少ない